



たづがね (鵲が音)

「笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい」の西北台っ子

いしかわ教育ウィーク(11/7) 妙成寺クイズラリー

全校で妙成寺へ行きクイズラリーをしました。6年生がこれまで2度妙成寺へ行き、見て回ったり話を聞いたり、本やWEBで情報を集めたりしながらクイズをつくりました(下左写真)。そのクイズを1~5年生が小グループになり境内を巡りながら解くイベントです(今年初めての企画)。妙成寺は西北台小校区内にある歴史的に大変貴重な建造物があるお寺です。子どもは、実際に見たり感じたりしたことで、新たな疑問が生まれ、廻り終わった後、自らお寺の方に質問をしていました(下右写真)。これは本物に触れたからこそ生まれた学び方なのでしょう。今後も「本物」をキーワードに教育活動へとつなげていきたいと考えています。

現在羽咋市は妙成寺国宝化に向けて国に働きかけています。近い将来国宝に指定されるように地域を挙げて進めていきたいですね。貴重な物を実際に見たり感じたりしながら本物に触れ、羽咋市教育委員会が掲げる「ふるさと教育」へとつなげていきます。



いしかわ教育ウィークに関連して行われた教育活動については、
西北台小 HP <https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/seihoe/> にも掲載しています。ぜひご覧ください。

本の寄贈がありました

公益財団法人みずほ教育福祉財団様より本の寄贈がありました。とてもありがたいことです。10月に読書について学校だよりでお伝えしましたが、子どもは新しい本に興味があります。寄贈の式(10月29日)を行ったすぐの昼休みに、すぐに借りに来ました。

読書には、読解力や知識が身につくといった学習面だけではなく、論理的な思考力や集中力など、子どもがこれから生きていくために必要な力も身に付けられる効果があると言われています。本を読むことは人生を豊かにしてくれることでしょう。

素敵な本との出会いで心を耕してほしいと願っています。



デジタルシチズンシップ教育

“優れたデジタル市民になるために必要な能力を身につけることを目的とした教育”(文部科学省 HP より)

子どもの学習環境もデジタル化が急速に進んでいます。今年度は学校でも児童用デジタル教科書が導入され、宿題や家庭学習でも端末活用が進んでいます。学校では、「西北台っ子の約束」があったり、毎月1回情報モラルの学習を行ったりしています。これからの社会ではデジタルは必要不可欠です。子どもが良きデジタル利用者に成長するためにも、今は学校や家庭において、きちんと大人が見守っていくことが重要です。ご家庭でも使い方や時間などルールをしっかりと決めて、優れたデジタル市民となるようにご協力ください。